

2021年度事業計画

2021年4月 1日から

2022年3月31日まで

清泉女学院大学・短期大学	1
長野清泉女学院中学・高等学校	7
清泉女学院中学高等学校	11
清泉小学校	14
清泉インターナショナル学園	17

学校法人 清泉女学院

S J N21 構想に基づく第 3 期中期計画スタートとし、計画に沿って建学の精神の下、安定した経営基盤の構築を目指している。

2021 年度は、2020 年度に認可となった教学組織の設置と着実な運営を進めるほか、新たな資格課程の設置の準備、大きく変化している高等教育行政に対応した本学らしい教育の質保証、地域との連携強化等を推進する。

これにより、ブランドイメージ、魅力を高めることで、第 2 次「清泉百年プロジェクト」としてコロナ禍においても清泉女学院の存在感を地域に向け発信していく。

1. 教育研究組織の改編、新增設

計画していた教育研究組織の改編、新增設は 2020 年度に認可され、2021 年 4 月に設置、運営を開始する。課題としては、人間学部の心理コース・英語コミュニケーションコースの在り方の検討を引き続き行うこととしている。

2. 教育活動

教学マネジメント体制の高度化、教育の質保証、学修の成果の見える化を進める。このため、アセスメント・ポリシーを適切に運用し、学習成果の実現に向け、3 ポリシー（A P、D P、C P）の検証、改善を行う。

(1) 建学の精神の実現

(大学・短期大学共通)

ミッションスクールの持つ暖かい雰囲気作り等によるほか、引続き多くの施策を通してアイデンティティの維持と地域への浸透を図る。2020 年度に引続き、建学の精神の基となるカトリック精神の可視化を、共通教育の再構築の検討と合わせて進めていく。

(2) カリキュラム

- ・ディプロマ・ポリシーの達成評価を継続して行い、学習成果の達成を図る。
- ・全学的な共通教育を含む教育課程及び取得できる資格等を確認し、教育内容及び組織等の再構築の検討を進める。
- ・アクティブ・ラーニング的要素をさらに導入し、自主的学修を適切に促す。

①人間学部

ア. 心理コミュニケーション学科

<心理コース>

- ・公認心理師の実習を円滑に進める。

<英語コミュニケーションコース>

- ・英語教職課程のカリキュラムを確実に実施するほか、取得できる新資格の検討を進める。

イ. 文化学科（設置 4 年目）

- ・文化学科の完成年度後のカリキュラム改定及び図書館司書資格導入の準備を進める。

②看護学部

- ・設置認可申請に沿って、着実な授業の運営（講義、実習等）を行う。
- ・保健師養成課程及び 2 年次編入制度の導入について検討を行い、結果によって申請等に向けた準備を進める。

③短期大学部

ア. 幼児教育科

- ・学習成果の獲得状況の確認を通して、授業改善、成績評価の適正化に取り組む。
- ・保育者養成の機器備品や教材の計画的な充実を図る。

イ. 国際コミュニケーション科

- ・コース制を含めたカリキュラムの再編成に向け、2022 年度実施を目指して準備を進める。
- ・編入希望者への支援の実施、及び学生確保のためのカリキュラム改定を進める。

(3) 英語教育・国際交流・留学

コロナ禍の影響を考慮しつつ、留学、国際交流への関心を高めるとともに、生きた英語力の強化に取り

組む。

ア. 英語母語話者の教員による授業、コンピュータによる英語学習などを行い、真正性の高い英語教育を継続する。

イ. コロナ禍における安全確保を前提に、 Semester 留学のサポート、海外研修プログラム充実を図る。

ウ. 受入留学生のサポート、在 student との交流を継続する。

(4) ICT 教育

数理・データサイエンス・AI 系科目の全学的な導入を通じた強化策の検討を行う。

①人間学部

資格取得を通して、基礎的能力の向上を図るほか、応用力の伸長も図る。

②短期大学部

ア. 社会に出て必要となるコンピュータの知識と技術を教育する。

イ. 国際コミュニケーション科ビジネスコースを中心に、より専門性の高い、時代の要請にあった ICT 教育を進める。

(5) 図書館

ア. 図書館の有効利用

東口キャンパス図書館との連携を強化するため、2 キャンパス間の有効的な運用を軌道に乗せる。
長野清泉中学・高校の生徒による東口キャンパス図書館利用の定着を図る。

イ. 学生の学修環境、教員の研究・教育環境の整備

上野キャンパス図書館の狭隘化への対応について検討を進める。

各科目で挙げられている参考資料を整備するほか、計画的に蔵書見直しを行う。

3. 研究活動

(1) 大学院の開設にあわせて研究費に関連する規程及び研究倫理規程の見直しを行い、着実に運用する。

(2) 研究成果の地域への還元や学内における教育改革の促進を目指し、共同研究の制度を見直すほか、科研費をはじめとした競争的研究資金の獲得を積極的に支援する。

(3) 研究関連諸規程及び取扱基準に基づく不正防止計画を確実に実践する。

4. 学生生徒支援

上野キャンパス、東口キャンパスの連携を密にして学生支援を行う。

(1) 奨学金

各種奨学金制度を分かりやすく学生に伝え、必要な学生に対する経済的な支援を行う。

高等教育の修学支援新制度による学生への支援を確実に行う。

(2) 通学支援

ア. コロナ禍の状況による影響に配慮しつつスクールバスとマイクロバスの運行を行う。

イ. バス通学学生への補助を継続する。

(3) ケア体制

ア. 学生生活上のサービス支援を継続する。

連絡網システム活用による、学生の安全確認、各種情報提供・連絡を適切に実施する。

一人暮らしの生活講座を開催し、下宿学生が安全に生活できるよう支援する。

イ. 学生支援の継続

教職員で欠席調査等の情報を共有のうえ、退学者の防止や学生個々人に合わせた支援を行う。

ウ. アメニティ等の意見の汲み上げ

学生生活アンケート結果の活用等により学生の意見を汲み上げ、可能な改善を行う。

(4) キャリア支援

ア. 多様な学生との相談体制および対応力の補強

・キャリア担当教員と情報共有のうえ、効果的な就職活動支援を行う。

イ. キャリア支援の質の向上

・ガイダンス・セミナー・キャリア系授業と連携し、キャリア支援の向上を図る。

ウ. インターンシップの推進

・インターンシップを推進し、職業意識の形成と自立心の向上に役立てる。

エ. 看護学部学生の就職情報収集、病院・企業・外部機関との関係構築に本格着手する。

5. 保護者・地域社会等との連携

(1) 保護者・卒業生

- ア. 保護者会（泉会）総会、学内報「カレッジ通信」による学内等の情報発信を継続する。
- イ. 卒業生の同期会を開催するほか、アンケート調査を実施し、卒業後の状況を確認する。
- ウ. 愛泉会との連携強化を検討する。

(2) 地域社会との連携

建学の精神を具現化する地域連携を展開する。

ア. 地域連携センターの機能再構築

地域課題と学部・学科の教育活動を繋げ、各学科の特徴を生かした教育研究の成果を社会的活動へ還元するため、リカレント教育、エクステンション教育のための仕組み作りの検討を進める。

イ. 生涯学習講座や開放講座

知の拠点として発信し、地域ニーズに応えられる体制と講座内容の見直しを継続する。

(3) ボランティア

ボランティア活動の質的・規模的な向上及び拡大を念頭に置き、学生主体のボランティア活動の実現に向け、学内での啓発活動、コーディネート体制を維持する。

6. 学生生徒の募集・受け入れ

(1) 入学者数・学生生徒数の目標

ア. 人間学部	110名
イ. 看護学部	84名
ウ. 看護学研究科	8名
エ. 助産学専攻科	6名
オ. 幼児教育科	105名
カ. 国際コミュニケーション科	70名

(2) オープンキャンパス・学校説明会

コロナ禍において、Webの開催、上野キャンパス、東口キャンパスを機能的に使用したリアル開催（DM案内、高校訪問による告知等を充実）等によりオープンキャンパスの強化を図る。

(3) 広報活動

第3期中期計画に基づく、第2次清泉百年プロジェクトを展開し、長野の清泉ブランドイメージの定着を引続き目指す。

改組と合わせてリベラルアーツの大学であることを強調した広報を展開する。

(4) 入試制度

高大接続改革に対応して、2021年度入試において導入した年内受験者の増強策を狙いとした新たな入試の仕組みを検証し、レベルアップを図る。

(5) 志願者増への取組

データ収集・分析に基づいた戦略の立案により展開する。

ア. 資料請求者の増加策の実施

早期の資料作成、配布、Web広告、ホームページの充実等を実施する。

イ. 高校へのアプローチの強化

- ・姉妹校との連携を強化する。
- ・出張講座、教員の訪問等による大学の学びと教員の魅力を伝える。

ウ. 保護者対策

オープンキャンパスに保護者説明会を開催し、地元進学等のメリットをPRする。

エ. 出願への誘導

- ・出願層の入試行動の仮説を前提とした入試制度を継続検討する。
- ・DMによる出願関連情報の提供を引続き行う。

(6) 編入・帰国子女

ア. 短期大学部から人間学部への姉妹校推薦編入学生の安定受入れを継続する。

イ. 漢陽女子大学からの編入学生の確保に限界が出てきており、別のルート開拓も検討する。

ウ. 国際コミュニケーション科から4年制大学へ編入を希望する学生確保を強化する。

(7) 学納金

全学的な学納金の水準は現状のままとする。但し、看護学部の学納金については、入試の状況から判断していく。

新しく導入した入試特典制度（ラファエラ・マリアスカラシップ）を引続き周知していく。

7. 施設設備の維持・充実

(1) 施設設備計画

ア. 上野キャンパス関係

アクティブ・ラーニング等に適した授業を展開するため、教室視聴覚機器等の充実を図る。施設設備の更新的な投資を継続して行う。

イ. 東口キャンパス関係

東口キャンパスにおける什器、備品整備のための投資を継続する。

(2) 修繕計画

大規模修繕は計画していないが、経年劣化した設備の維持的投資及び修繕を行う。

このほか、2020年度に上野キャンパス整備プロジェクトのための委員会を設置しており、老朽化している施設の対応、機能の見直し、演習棟の建設も含めた施設の再構築に向け、検討を進める。

8. 外部資金

(1) 補助金

ア. 経常費補助

経常費補助の獲得が厳しくなる中、2019年度実績並みの補助金獲得を目指す。

改革総合支援特別補助等へ積極的に申請する。

イ. その他補助金

可能な補助金については都度申請していく。

(2) 寄付金

ア. 通常寄付

関係団体からの寄付金を募集する。

イ. 清泉百年プロジェクト

コロナ禍において清泉百年プロジェクト（施設の充実、定員の確保等）寄付金募集の訪問等を伴う積極的な活動は当面見合わせるが、ホームページ等における募集は継続、今後は新校舎の建設に向けて新たな方策も検討する。

(3) 研究費等

研究活動の充実のため、科研費への応募を一層促進する。

9. 管理運営、財政基盤の充実

(1) 中期計画

ア. PDCAの実施

年度及び半期の実施状況の確認と未達成事項等を踏まえた計画の修正を実施している。内容の点検は、自己点検評価とも連動させ、計画達成のための実質的なPDCAを引続き展開する。

短期大学の2021年度第三者認証評価に対応して、漏れのない準備を進める。

イ. 第3期中期計画の遂行

2019年度に策定した第3期中期計画（2020年度～2024年度）を着実に遂行する。

遂行に当たっては、IR、自己点検評価等により得られたデータ、仮説に基づき修正をしつつ遂行する。

(2) 経費方針

ア. 予算編成

事業活動収支計算書の全体見込額を予算として、その枠内で部署の予算を割り当てる方式で編成する。予算割当額は、各部署の過去の実績と年度における事業の必要性等を考慮のうえ経営改革・運営会議で決定し、各部署に通知する。

イ. 経費計画

教育研究水準の低下を招かないことを前提に、過去の実績を考慮のうえ総枠としての経費見込額

を設定した。この総枠から各部署予算枠を設定するが、各部署の削減努力により達成する。

(3) 第2号基本金計画
計画しない

(4) 情報・システム関連

システム基盤関係機器の老朽化対応のほか、大学院、専攻科等の設置に伴う対応を実施する。

(5) 自己点検・評価

毎年のIR室の分析等を基に点検評価を実施し、点検評価を翌年度事業計画に反映をすることで事業計画のPDCAとリンクさせる。

特に、「教育の質保証」については、アセスメント・ポリシーに基づき、アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーの検証を実施する。

10. 経営課題

(1) 経営状況の分析

①財務分析

ア. 大学

2003年4月に開設されて以来、入学定員割れの状況が続いていたが、2018年度からは入学者が定員を上回っている。過去の定員割れの影響から、2007年度からは経常収支差額は赤字を計上している。運用資産はマイナスとなっているが、短期大学と一体で財務運営をしている関係から借り入れをすることなく運営し、資金面の懸念はない。

日本私立学校振興・共済事業団の経営判断指標 イエローゾーンの「B2」段階

イ. 短期大学

ここ数年、幼児教育科、国際コミュニケーション科合わせた入学者は、定員を若干割って推移している。この影響から、経常収支差額の黒字は減少し、2018年度の収支はほぼ均衡している状態である。

日本私立学校振興・共済事業団の経営判断指標 グリーンゾーンの「A2」段階

ウ. 全体

2019年度看護学部を設置における新校舎建設資金の支出、また、看護学部が完成年度を迎えるまでは経常資金の流出がある。

②マーケット分析

存立基盤の確立に向けた、マーケットの確認

大学：社会動向、高等教育機関の動向等から長野県において一定数の進学者が見込める状況は続くことと推定される。この状況で、大学は心理、英語、文化の学びをより明確にし、受験生へ訴求することで、人間学部の学生確保は可能なマーケット状況と判断する。また、看護学部に関してもマーケットとしては十分にあり、学生確保が可能な状況にある。

短大：県内短期大学における本学のステータス及び教育実績、就職実績等での強い立ち位置から、今後、一定の学生確保はできる状況にあるが、短大進学者数は減少傾向にはあり、さらなる改革が必要となる。

(2) 経営上の成果と課題

人間学部に文化学科を設置、公認心理師資格課程の設置、「清泉百年プロジェクト」の展開等により、2018年度からは全学の定員をほぼ充足する入学者を確保してきている。2019年4月新設した看護学部は、2020年度までは学生確保に課題があったが、2021年度入学者はほぼ確保できる見込みとなっている。さらに、2021年4月に大学院看護学研究科と助産学専攻科を設置し、SJN21構想で計画した存続が可能となる、大学の枠組みは完成した。しかしながら、短期大学国際コミュニケーション科は、2021年度から定員を20人削減し80人とするが学生確保は厳しい状況にある。

収支面は、人件費、一般経費の効率化を進めているが、文化学科及び看護学部の設置、資格課程の設置等により新たな経費が発生し、赤字が継続している。看護学部の完成年度の2022年度には、経常収支差額の黒字化となる見込みである。

一方、上野キャンパスは老朽化・狭隘化してきており、全学的なプロジェクトを立ち上げ総合的な対策に着手したところである。

(3) 今後の方針・対応方策

経営面の戦略（上記SWOT分析ほかによる）

①学生確保

- 戦略1 広報活動の見直し、入試制度の見直し、奨学金制度の再検討により、組織的な学生確保を安定化させる。(学生確保の強化)
- 戦略2 教育の質を保証し、学生満足度を向上させ評価をあげることで魅力ある教育機関としてアドミッション・ポリシーに適合した学生を確保する。(質保証体制の整備)

②経営 財務面

- 戦略1 危機感の共有化の下、教職員の意識改革を促し、人材の育成、業務の効率化を図り、適正な人件費、経費による運営を維持する。(人材育成、業務の効率化)
- 戦略2 入学者の増加及び補助金行政への対応により2023年度に全学合わせて黒字化を図る。(外部資金獲得強化)
寄付金募集の強化については当面見合わせる。

③投資、施設設備面の整備

- 戦略1 アクティブ・ラーニング、演習等の充実を図るため、校舎、施設面の再整備を第3期中期計画第2フェーズの教学改革計画にタイミングを合わせて検討する。(上野キャンパスの整備)
- 戦略2 大規模な再整備計画と並行して、アクティブ・ラーニング用の教室や、老朽化した施設の改修を行い、学生の満足度を向上させる。

④姉妹校、外部機関との連携強化

- 戦略1 第3期中期計画第1フェーズで、長野清泉女学院中学・高等学校との連携強化を模索し、強化策を打ち出す。
- 戦略2 関係団体、外部関係先、地域企業等との連携を強化する。

1.1. その他

(1) 周年活動

2021年4月に短期大学設置満40年となるが、記念行事は予定しない。

(2) その他記念行事

2021年4月の大学院設置、助産学専攻科設置の記念行事はコロナ禍の影響で当面見合わせる。

新学習指導要領の実施に向けて、地域で魅力ある学校としてあり続けるための改革を進める

1. 教育研究組織の改編、新增設

- ・新学習指導要領の実施に向けて、高校の新コース編成の主旨の共有と教科ごとの内容の再構築を進める

2. 教育活動

(1) 建学の精神の実現

- ・建学の精神に基づいた「総合的な探究の時間」のプログラム作りを進める

(2) カリキュラム

- ・新学習指導要領の実施に置いて、魅力ある中学であるための「総合的な学習の時間」の見直し
- ・新学習指導要領における高校の新カリキュラムの実施に向けた準備

- ・各科の探究科目の研究と高大連携の推進

(3) 英語教育・国際交流・留学

- ・英語教育の強化

ICTを活用した個々に合わせた英語教育の研究・実践

- ・エンパワーメントプログラムの継続

- ・高1 語学研修、中学オーストラリア研修の充実

- ・高大接続の具体化

- ・楽力プロジェクト B: 世界とつながる

海外姉妹校との交流の継続および新たな企画立案

- ・ICTを活用した新たな国際交流のあり方の研究

(4) ICT 教育

- ・中高の新生一人一人にタブレットを貸与し、主体的な学び実現のために授業内で使用しているが、すべての教科でタブレットを活用する

- ・AI 型数学教材を使用することで、苦手意識を持つ生徒や得意で授業より先に進みたい生徒への要求にこたえる授業計画の実施

- ・さまざまな理由で学校に登校できない生徒に対して、遠隔授業が滞りなくできるような体制づくり

- ・教員対象の授業で活用するための校内研修の実施

- ・ペーパーレス化の推進

- ・インターネットが途切れないために4G の基地局を校舎屋上に設置

(5) 図書館

- ・「探究」授業の充実に向けて各教科との連携強化

- ・楽力プロジェクト C: 読書の恵み

「本を読むことで、学力だけではなく、表現力、コミュニケーション能力を高める」ことを目標に、読書感想文、POP作り等を通じて、他者へ伝える力を育む

- ・朝や放課後での学習の場としての設備を充実させる

3. 研究活動

- ・カトリック学校としての存在意義とは何かを外部講師を招聘して教職員全体で学び考える場を設ける

- ・2022年度の新カリキュラムに向けての授業計画の作成

- ・ICT を用いた授業の研究と実践

- ・タブレット貸与に際して問題点を洗い出し、今後の生徒指導や支援に関する研究と実践

- ・主体的な学びに向けての支援方法の研究と実践

- ・中高大連携の効果的な在り方の研究と実践

4. 学生生徒支援

(1) 奨学金

奨学生: 前期後期の半期ごとに人物および学業成績優秀者、各学年 1 名に、60,000 円を支給

(2) 通学支援

長野駅から本校直通のスクールバスを運行(朝4台、夕3台)また、最寄りバス停や駅周辺での見守り活動を実施・継続

(3) ケア体制

- ・中学と高校それぞれに相談室を設置し、一時的なサポート教室として活用
- ・保健室内カウンセリングルームの活用
- ・臨床心理士(スクールカウンセラー)の教育相談日の設定と実施
- ・発達障がい理解のための研修会の実施や非常勤講師との情報共有によるサポート体制の構築

5. 保護者・地域社会等との連携

(1) 保護者・卒業生

- ・保護者授業参観、保護者会、懇談会、講演会等の実施と内容の充実
- ・保護者会を合同で実施することにより活性化

(2) 地域社会との連携

- ・老人福祉施設やろう学校等の交流の継続
- ・楽力プロジェクトA・E: 地域行事への参加・交流、地域施設の企画への協力

(3) ボランティア

- ・サマーチャレンジボランティア等地域ボランティア活動の推進

6. 学生生徒の募集・受け入れ

(1) 入学者数・学生生徒数の目標

- ・2021年度中1は33名とほぼ定員を満たした。2022年度も定員の充足を目指す
- ・2021年度高1は一貫生の減少に伴い、10名以上の減となる見込み。また、地域の中3生の減少も更に続くため、新学習指導要領の実施にあわせて、新コース編成で本校の特徴を明確にし、志願者増を目指す

(2) 学校説明会

- ・学校説明会の内容の見直し

体験入学、授業見学、体験授業、模擬試験などの効果的な実施を検討。特に遠方の方が参加しやすい「リモート説明会」を充実させる研究を更に進める

(3) 志願者増への取り組み

- ・本校の魅力の1つであるより英語に特化したコースを新設し、他校との差別化を図る
- ・課外活動の場への参加による広報活動の検討
- ・学校訪問における効果的な情報提供の検討と実施
- ・新しい学びを取り入れた魅力的な授業の研究と実施

(4) 編入・帰国子女

- ・中学および高校への編入、転入における制度の充実
- ・ホームページにおける海外向けPRの充実
- ・帰国子女の編入、転入制度における校内協力体制の仕組みづくりおよび進学先の研究

(5) 広報活動

- ・2022年度新カリキュラムに対するホームページの発信
- ・新しいホームページの作成
- ・小中学校用配布チラシの内容の検討・改良
- ・イメージ動画の作成と公開
- ・小学校行事への協力の拡大
- ・地域行事への積極的な参加
- ・上記作成用機材の充実及び使用方法の研修

(6) 入試制度

- ・2021年度入学者選抜より始めた特色ある入試制度を中高ともに継続
- ・入試に関わる業務を中学校や保護者の視点に立って見直し、改善を推進

(7) 学納金

- ・2020年度からの就学支援金制度の変更に伴い、従来の維持費を授業料に組み込むことで保護者負担の軽減を図っている。

7.施設設備の維持・充実

(1)施設設備計画

- ・聖心館等大規模改修工事第2期(教室照明のLED化等)

(2)修繕計画

既存施設設備の維持・安全管理

- ・聖心館等大規模改修工事第2期(感染症対策工事:和式トイレの洋便器化、非接触型水栓化等)
- ・屋外構築物の塗装・修繕等
- ・防火シャッター法定点検

8.外部資金

(1)補助金

- ・学校法人補助金の更なる増額確保を目指し、教職員一丸となった取り組みが図れるよう教務部と連携し増額確保に取り組む
- ・施設環境改善整備補助金を活用した水回りの感染症対策工事
- ・学校保健特別対策補助金を活用した消毒アルコール一括購入等による感染症対策の強化

(2)寄付金

- ・大学・短大との清泉百年プロジェクトによる寄付金募集
- ・ホームページや学校新聞、同窓会報等を活用し、寄付金募集の周知を行う
- ・返還学校債からの寄付受納及び勧誘

(3)遊休資産売却等

- ・自動販売機設置場所の賃貸借化による収益確保
- ・検定試験会場貸与による施設使用料を見込む
- ・屋上への携帯電話エリアアンテナ設置による賃貸借収入
- ・校庭下の旧テニスコートについて活用を検討する

9.管理運営、財務基盤の充実

(1)中期計画

- ・職員会におけるこれまでの決算概況報告に加え、中期計画における現在決算状況及び中期計画の遂行状況を報告する様式へと発展させ、教職員一丸となったPDCAへの取り組みや経営意識の醸成を図る

(2)経営方針

- ・下見積による価格調査や協力業者への照会を励行する等、見積合わせの徹底と強化を図る
- ・LED照明への切替えや新電力の推進、デマンド制御装置の活用や太陽光発電システムの効率運用等により省エネ及び電気料金の徹底した削減を図る
- ・タブレットを活用しペーパーレス化を図るとともに、印刷時の裏紙利用を促進する
- ・地元地区の資源回収の利用により、廃棄コストの削減に努めるとともに地域貢献を図る
- ・授業料等滞納者や家計急変者への迅速な対応、保護者負担軽減制度の周知徹底を図ることにより滞納の未然防止及び早期解消に努める

(3)第2号基本金計画

- ・H30年度に3億円の積立が満了となり、当面の新規組入計画はなし

(4)情報・システム関連

- ・職員会議などでICT機器を利用することで、ペーパーレス化及びセキュリティー強化を図る
- ・学校業務用ファイルサーバーを更新するとともに、保存についてのルール作りを行う
- ・管理者権限を持つ教職員を複数人とし、負担を分散させるとともに情報漏洩の危険性を周知する

(5)自己点検・評価

- ・自己点検・評価を行うことで、偏りのない業務分担を目指す

10.経営課題

(1)経営状況の分析

- ・経営判断指標に基づく経営分析を行うとともに、教職員に財務情報の共有し経営意識の醸成を図る

(2)経営上の成果と課題

- ・生徒募集部を中心とした学校説明会等への注力、各種媒体(紙、WEBなど)での広報活動の更なる充実化

(3)今後の方針・対応方策

- ・学校自己評価を継続して行い、魅力ある学校づくりのための教育活動、教職員のあり方の見直しを行う
- ・2022年度開始の新カリキュラムと新コースの学校内外への周知徹底
- ・教員に支給したタブレットを活用し、授業や会議などの効率化と負担軽減を図る

11.その他

大学・短大との清泉百年プロジェクトによる寄付金募集を継続して行う

1. 教育研究組織の改編、新增設
 - ・教職員の働き方改革を進めるため、研修日制度の導入
 - ・65分授業、土曜活用、3学期制への移行
2. 教育活動
 - (1) 建学の精神の実現
 - ・中1から高3まで6年間通じてのライフオリエンテーションプログラムの充実
 - ・「清泉が大切にしている10の価値」を月目標にしての意識化
 - (2) カリキュラム
 - ・探究活動の時間を確保するため、土曜登校の実施
 - ・学習内容の定着および振り返りや発表活動を行えるように65分授業の導入。
 - (3) 英語教育・国際交流・留学
 - ・英語教育
 - ・帰国生特別取り出し授業の充実
 - ・英語4技能を偏りなく育成する方法の研究
 - ・FLIP (Foreign Language Interactive Program)によるオンライン英会話、e-learning 中国語、スペイン語の選択学習の継続)
 - ・タブレットを使った授業内オンライン英会話の拡充
 - ・国際交流
 - ・中3・高1 ニュージーランド夏期語学研修プログラム
 - ・ベトナムスタディツアー (予定)
 - ・海外模擬国連への参加 (予定)
 - ・留学
 - ・ニュージーランド短期(3か月)留学制度
 - ・インターナショナル学園への国内留学(1週間)
 - ・留学生受け入れ(日本政府招聘アジア架け橋プロジェクト留学生)
 - (4) ICT教育
 - ・中2から高3全員がタブレットを所持。Chromebookを利用した授業が可能
 - ・中1・中2全員にパソコン特別講座開催。使い方、プログラミング基礎を学習。
 - ・学校・学年からのお知らせの配信
 - ・生徒主体のICTルール作りのためにICT委員会を発足
 - ・教員のためのICT研修実施
 - (5) 図書館
 - ・電算化のための作業継続
3. 研究活動
 - ・65分授業を有意義にするための調査・研究・実践
 - ・大学共通テストに関する情報収集と学校内での情報共有
 - ・大学進学指導を中心に、教職員の指導力を高める研究と、教員の自己研鑽機会の増加
 - ・生徒の環境(不登校、ネット依存など)の変化に合致した生徒指導の研究と実践
4. 学生生徒支援
 - (1) 奨学金
 - ・白水会・泉会・ラファエラマリア会より学費支援、国際交流推進のための奨学金
 - ・泉会より中学3年生成績優秀者に高校入学金免除の特典(ラファエラマリア賞2名)
 - (2) 通学支援
 - ・定期試験、行事などにおけるバス増発(続行便)
 - ・災害時対応として、首都圏私学の「登下校時の緊急避難校ネットワーク」に参加

- (3) ケア体制
 - ・週3日、2名の学校カウンセラーのほか、週3日教育相談室に相談員を配置

- 5. 保護者・地域社会等との連携
 - (1) 保護者・卒業生
 - ・保護者面談を年1回から2回実施へ変更
 - ・グーグルクラスルームを利用した学校情報の共有強化
 - ・キャリア教育の一環として中3、高1、高2で卒業生の講演会実施
 - (2) 地域社会との連携
 - ・玉縄城址見学者の受け入れ。
 - ・神奈川県ユースの合唱イベントへの協力。
 - (3) ボランティア
 - ・生徒会を中心とした大船駅周辺および海岸清掃活動
 - ・老人福祉施設（共楽荘・七里ヶ浜ホーム）の訪問
 - ・福祉委員会による身体障害者地域作業所との交流および各種募金活動

- 6. 学生生徒の募集・受け入れ
 - (1) 入学者数・学生生徒数の目標
 - ・清泉小学校からの進学者数を考慮して中学入試定員を20名程度増やす。
（新入生全体で180名確保を目指す）
 - (2) オープンキャンパス・学校説明会
 - ・学校説明会（年3回、内1回は文化祭で実施）・親子見学会（年10回程度）・少人数学校見学会（年5回程度）・クラブ見学会（年1回）の実施
（対面でできなければオンライン開催や動画配信）
 - ・4年生以上の清泉小学校生徒・保護者対象の説明会等の実施
 - (3) 志願者増への取組
 - ・ホームページのリニューアル検討
 - ・各塾への個別訪問（年2回）による情報発信と受験生の掘り起こし
 - (4) 編入・帰国子女
 - ・中学入学試験および転編入試験における海外帰国子女の積極的受け入れ
 - ・米国、香港、シンガポール、バンコクでの説明会に参加。現地インターナショナル校、塾への広報活動（対面でなければオンライン参加）
 - ・帰国生入試の海外実施またはオンライン入試実施
 - (5) 広報活動
 - ・神奈川県私立中学校相談会、神奈川県〔中・高〕全私学展、私学フェア等、湘南ガールズリーグ、オンライン説明会など学外での情報発信の機会への積極的参加
 - ・校長、教頭、広報部長による塾訪問など広報活動
 - ・ホームページ上での発信の強化及び
 - ・ホームページリニューアルの準備
 - (6) 入試制度
 - ・算数一科入試（SP入試）導入
 - ・入試における面接の撤廃、「あゆみ」に代わる「活動報告書」提出
 - ・オンライン入試の実施方法研究
 - (7) 学納金
 - ・変更なし

- 7. 施設設備の維持・充実
 - (1) 施設設備計画
 - ・空調設備更新（理科・家庭科系統）

- (2) 修繕計画
 - ・校舎外壁補修
- 8. 外部資金
 - (1) 補助金
 - ・対象事業に対する補助通知を受けた場合は、補助内容の検討・精査をし速やかに申請を実施
 - (2) 寄付金
 - ・教育研究充実の寄付金を卒業生中心に募る
 - (3) 遊休資産
 - ・遊休資産活用・売却の検討
- 9. 管理運営、財務基盤の充実
 - (1) 中期計画
 - ・事業計画、決算報告等を職員会議の場で説明し教職員に周知
 - ・中期計画に基づく適切な予算執行・管理を行うことで健全な学校運営を務める
 - (2) 経費方針
 - ・適切な予算執行の上、経常的経費の見直し・検討を実施する事で経費削減を図る
 - (3) 第2号基本金計画
 - ・ラファエラ館建替え資金として2018年度から2024年度の7年間（毎年5千万円）組入
 - (4) 情報・システム関連
 - ・システム連携について検討し業務の効率化を図る
 - (5) 自己点検・評価
 - ・「保護者 在校生満足度調査」の実施報告を受け研究を継続
- 10. 経営課題
 - (1) 経営状況の分析
 - ・外壁補修工事（～R3年度）及び2号基本金積立（～R6年度）を実施しており第2号基本金積立完了年度（R6年度）までは当年度収支差額は回復見込がない
 - (2) 経営上の成果と課題
 - ・姉妹校による内部進学者が減少傾向にある
 - (3) 今後の方針・対応方策
 - ・今後の方針
 - ・姉妹校による内部進学者が減少傾向にあるため、魅力ある学校作りを行い一般受験生の増加を図り定員180名確保を目指す
 - ・対応策
 - ・ICT授業の研究
 - ・収入増加と経常経費の抑制を図る
- 11. その他
 - (1) 周年活動
 - ・特になし

1. 教育研究組織の改編、新增設

- 特になし

2. 教育活動

(1) 建学の精神の実現

- 建学の精神を様々な学校生活を通して、子ども達に伝え、感じ取らせる働きをする。具体的には「学校の日」「マリア様の集い」「聖心のミサ」「クリスマスの集い」「感謝ミサ」等の学校行事、宗教行事、講堂朝礼の校長の話、宗教科教師による朝の話を通して、子ども達に神の愛を伝える。
- 「わたしたちの教育スタイル」の理解、及び“10の価値”の浸透を図る。
- SDGs を糸口に、国際的・社会的問題に関わっていく姿勢を育む。

(2) カリキュラム

- ・新指導要領の改訂に伴い、独自の清泉プランの完成と実践。
- 夏休み前の補習（全学年）、放課後補習（高学年）を行う。
- 2～6年生希望者を対象に放課後課外クラブ（陸上）を実施する。
- 3年生対象に放課後学習支援（Z会）を行う。
- 1～3年生で実施した様々な学習の成果を発表する。4～6年生は学校行事を企画・実行する。
- 大切にしている基本的なカリキュラムに乗せて、3つの柱（英語・ICT・主体的・対話的な深い学び）を重点的に行う。
- 各教科様々な視点からESDに取り組む。

(3) 英語教育・国際交流・留学

- 5・6年生希望者を対象に海外語学研修（オーストラリア）を実行可能になったら行う。

(4) ICT教育

- ① e-learningの研究・推進を図る。
- ② プログラミング教育の積極的な導入。
- ③ 1人1台のタブレット学習（2, 3, 4年生）、他学年は共有タブレット
- ④ 週2日ICT支援員を導入し、教育の充実を図る。

(5) 図書館

- 図書管理システム導入に基づき、重点的な蔵書点検を行う。

3. 研究活動

- 大学教授指導による「授業研究会」を年6～7回実施する。
- 各教師が自主的に授業を公開し、互いに研鑽を深める。
- 私立小学校関係の研修会および全国の教育推進校の研修会に積極的に参加する。

4. 学生生徒支援

(1) 奨学金

- 奨学金制度（給付型）を維持する。

(2) 通学支援

- 児童のために常時警備員を置くほか、安全情報確保のため登下校管理システム、災害時被災報告システム、県内私立小避難校ネットを活用する。
- 通学路にある商店街に協力を依頼し、緊急時には受け入れの承諾を得、安全を図る。
- 多くの児童が登下校時利用する鎌倉駅構内の指導、安全確保を図る。

(3) ケア体制

- 週1日のスクールカウンセラーを導入し、体制の強化を図る。

5. 保護者・地域社会等との連携

(1) 保護者・卒業生

- 「通信表」を年3回(教科別観点方式)、「学校生活のようす」を年2回(1学期、3学期)、「総合活動のようす」を年1回家庭に知らせる。
- 1年に2回(1学期、2学期)「オープンスクール」を開く。(在校生保護者のみ参加)
- 「父の会」「母の会」「保護者会」「のぞみ会」「父親の集い」等で、保護者に学校の目指すものを伝える。
- 「学校だより」「学年通信」「学級通信」「保健だより」「算数だより」「図書だより」「体育だより」「英語だより」を発行する。
- 「いずみ新聞」を年4回発行する。

(2) 地域社会との連携 近隣の清掃実施。

6. 学生生徒の募集・受け入れ

(1) 入学者数・学生生徒数の目標

- 新1年生の募集：114名 編入生(1～5年)若干名。

(2) オープンキャンパス・学校説明会

- 公開行事、公開授業、学校体験を含めた学校説明会、自然教室公開を積極的に行う。

(3) 志願者増への取組

- 幼児教室主催の説明会参加を積極的に行う(オンラインによる方法を導入)。
- 幼児教室主催の講演会を行う(オンラインによる方法を導入)。
- 幼児教室・幼稚園訪問を積極的に行う(オンラインによる方法も導入)。

(4) 編入・帰国子女

- 国内に関しては基本的には年1回1月末に試験を行い、次年度より受け入れる。帰国子女に関しては相談の上、適切な時期に試験を実施し受け入れる。

(5) 広報活動

- 安定した定員確保のための積極的な広報活動を実施する。
- ホームページの内容を改変も含め充実させる。
- 卒業生の声を積極的に掲載する。

(6) 入試制度

- 編入の受け入れは年度初めに行う(国外からの場合は適切な時期に行う)。
- 入試日程を前倒し、入試回数を増やして、遅れのない入学者確保を図る。
- 即日発表を含めたweb出願・手続きの実施。

(7) 学納金

- 変更なし

7. 施設設備の維持・充実

(1) 施設設備計画

- 理想の学校施設を実現していくために、全教職員が参加する形でキャンパスマスタープラン作成を進めていく。
- 校舎二、三階内装改修に合わせ、LED化を進める。

(2) 修繕計画

- 校舎二、三階内装工事、衛生器具更新、校庭トップコート更新、駐車場移転に伴う第二グラウンド整備等を行う。

8. 外部資金

(1) 補助金

- 例年通りの金額を見込む。

(2) 寄付金

- 従来の卒業生、在校生及び入学手続終了者からの募集に加え、引き続き75周年記念行事にあわせた寄付金募集を行う。

9. 管理運営、財務基盤の充実

(1) 中期計画

- 引き続き必要な投資は前倒しで実施し、効果の早期実現を図って行く。

(2) 経費方針

- 広報費、修繕費については、必要な手当てをしていく。
- その他経費は抑制的に運用していく。

(3) 第2号基本金計画

- 三浦自然教室土地取得資金の積み立ては前年度で完了。

(4) 情報・システム関連

- 前年度導入した成績処理システム・WEB 出願システムを活用し、関連業務の合理化を図って行く。

(5) 自己点検・評価

- カトリック連盟から示されたカトリックミッションに沿った宗教教育、行事が適切に行われているか、しっかりと自己点検していく。
- 教職員の自己点検、保護者からの評価を実施し、PDCAにつなげていく。

10. 経営課題

(1) 経営状況の分析

- 安定的経営のためには児童数が650前後は必要(20年度552)。
- ここ数年、職員人件費は抑制できているが、教員人件費が増加傾向にある。

(2) 経営上の成果と課題

- 児童数の回復が喫緊の経営課題。

(3) 今後の方針・対応方策

- 積極的な広報活動を実施。出願方法や日程も見直し、児童数の回復に全力を挙げる。
-
- 人件費については、中期計画の中で対応していく。

11. その他

(1) (周年活動)

- 75周年行事実行に向けて準備を進めていく。

1. 教育研究組織の改編、新增設
無し
2. 教育活動
 - (1)「モンテッソーリ教育（幼稚部）」と「国際バカロレア」が提供する3つのプログラム（①小学部：PYP、②中等部：MYP、③高等部：DP）を柱に、引き続き特色ある教育の実践に努め、「国籍を超えて平和な世界を築く為の人材育成」を目指していく。
 - (2)2022年3月のアクレディテーションチーム来訪に備え準備作業を行う。
3. 研究活動
教育カリキュラムにおける生徒成績評価と共に、学習態度等も含めた多面的評価につき引き続き研究を行なう。
4. 学生生徒支援
コロナ禍で各種制約があるが、安全・衛生面を十分考慮しつつ、クラブ活動、各種スポーツ競技活動、音楽活動等への支援を行っていく。
5. 保護者・地域社会等との連携
例年継続して行っている以下の各種活動については、コロナ禍でその実施が不透明ではあるが、安全・衛生面を十分考慮の上、状況を見極めつつ対応していくこととする。
 - (1) 保護者主催によるバザー支援と地域社会との交流。
 - (2) 姉妹校及び近隣日本校との交流活動
 - (3) St. Raphaela Day 等を中心とした各種ボランティア活動等への積極的参加
 - ① 老人ホーム・デーホームでの奉仕活動
 - ② 恵まれない人々への食事提供活動
 - ③ 学校近隣の清掃奉仕活動他
6. 学生生徒の募集・受け入れ
2020年度にウェブサイトのコンテンツ見直しを行い、内容の全面的刷新を実施。当学園の教育方針、具体的な生徒活動や卒業後の進路等、あらゆる情報を分かりやすく発信・アピールできる環境を整えたことで、多くの生徒保護者の理解を促し、安定的な生徒数の確保につなげていく。
7. 施設設備の維持・充実
2016年度より実施してきた校舎建物に関する付属設備の更新及びそれに伴う内装改修工事を継続方針。コロナ禍で資材調達等にも支障が出た影響で、2020年度については当初計画の変更を余儀なくされたが、2021年度については①高校棟屋上防水工事、②小学部棟図書室の内装、電気設備等更新工事、並びに③インターネット環境整備工事を中心として実施予定。
尚、2020年度に実現しなかった高校棟の空調設備更新については、2020年度の決算結果を睨みながら取捨選択の上、適正規模の更新工事を行うことも検討したい。
8. 外部資金
 - (1) 例年通り東京都に対し「外国人学校教育運営費補助金」を申請予定
 - (2) 東京都私学財団等、施設設備改善に際し利用可能な補助金を検討する。
 - (3) 寄付金については、ウェブサイトのツール等も利用し、様々な機会を通じて企業、保護者並びに卒業生に対し協力を要請していく。

9. 管理運営、財務基盤の充実

- (1) 中期計画
財務上の数値目標達成に向け「収支バランス」に一層配慮した運営を図っていく。
- (2) 経費方針
収支バランスに留意し、プライオリティを重視した支出方針の継続。
- (3) 第2号基本金計画
2025年度まで、每期30百万円繰入計画。
- (4) 情報・システム関連
今年度予定のインターネット環境整備を通じて、WiFiを含めたネットワークの安定・強化を図る。
- (5) 自己点検・評価
アクレディテーション対応のための自己評価並びに要改善点の洗い出し並びに対応策の作成ルールに準拠し対応予定。

10. 経営課題

- (1) 経営状況の分析
対外的な広報活動等が奏功し、生徒数も微増傾向、また近年の校納金値上げ、Summer schoolプログラムの拡充と相まって、収入増にも寄与してきている。
他方、高止まりを続ける人件費、毎年の施設設備改修に伴う支出金額は大きく、収支は厳しい状況が続いている。
特に今年度は、コロナ禍での生徒数制限による校納金減収が見込まれることから、収支状況には特段の注意をもって対応することとしたい。
- (2) 経営上の成果と課題
上記(1)参照
- (3) 今後の方針・対応方策
人事政策順守、効率的な施設設備改修投資、生徒数増加に向けた施策強化

11. その他

- (1) 周年活動等
2022年に60周年を迎えることとなるため、今後コロナ等、学校を取り巻く社会・教育環境を見極めながら、検討することとしたい。